

# さくらんぼ



自ら動き、感じ、楽しむ

～笑顔あふれる幼稚園～

NO. 1 令和3年5月6日発行  
山口大学教育学部附属幼稚園  
URL:<http://www.ymg-kg@yamaguchi-u.ac.jp>

今年の4月は暖かい日が続き、花々や木々の芽吹きも早く、過ごしやすい気候で、園庭で元気に遊ぶ子どもたちの姿が多く見られます。その子どもたちをあたたく見守るように、花組保育室側の「さくらんぼ」も例年より早く赤い実を実らせました。赤く実った「さくらんぼ」は年長児の星組が力を合わせて収穫し、それを園のみんなで分け合っていました。こんな風に子どもたちを喜ばせてくれている園庭の「さくらんぼ」にちなんで命名した通信「さくらんぼ」です。園での楽しい生活とそこでの育ちを各担任がお伝えします。

今回は新学期をどのように過ごしてきたか、それぞれの年齢の姿とともに、保育者の思いや願いをお伝えしようと思います。

## ドキドキワクワクの幼稚園（花組）

今年度は15名の子どもたちを迎えて花組の1年が始まりました。初めておうちの人と離れて幼稚園で過ごす子どもたちにとっては、きっとドキドキがいっぱいだったでしょう。おうちの人と離れるときに涙が出たり、遊んでいる途中でふとお母さんを思い出したりする子どももいました。しかし、日を重ねるにつれ、緊張や不安なドキドキより、幼稚園って楽しそう！面白そう！のワクワクが増えてきているなど感じています。カメやウサギにエサをあげたり優しくなったり、ドクターイエローやハヤブサなど好きな電車をつなげたり、好きなキャラクターのぬり絵をしたりと、登園してから子どもたちは好きなものや興味のあるもので遊び始めています。子どもたちの気持ちが切り替わるポイントはそれぞれですが、どの子どもたちも少しずつ安心して園での生活を楽しめるようになってきました。

子どもたちを温かく迎えてくれているように、今月はとても良いお天気に恵まれました。お日さまに誘われるように、自然と子どもたちも外に気持ちが向き、後半は戸外で砂場やダンゴムシ探しを楽しんでいます。戸外での草花や生き物との出会いに子どもたちは目を輝かせていました。葉っぱの下に隠れるダンゴムシを見て、「ここがダンゴムシのおうちかな？」と言うAくん。幼稚園ならではの

きなアリを見つけ、「キャー！」とびっくりし、それでも恐る恐る近づいてみるBくん。パンジーの花と水を入れたビニール袋を揉みながら「わ～！きれいだねー！」と色が変わっていく様子に感動するCちゃん。そのときの嬉しさや感動、驚きなどの気持ちが表情にいっぱい表われていました。これから子どもたちはいろいろなものに出会って心を動かしていくのでしょうか。一つ一つの出会いや経験を大切にしていきたいなと感じました。

砂場では、型抜きやままごとで遊ぶことを楽しんでいます。始めは型の中に砂を入れることに夢中で、ひっくり返すことには気づいていない子どももいます。しばらくして全部の型に砂を入れて満足していたDくんに、「こんなこともできるよ」と保育者がひっくり返して見せると「わー！すごい！！」と拍手をして喜んでいました。保育者がする様子を見て何度も喜び、次は自分でもやってみようと手に取り、できたことをとても嬉しそうにしていました。また、子どもたちはよく砂でつくったご馳走を保育者のところに持ってきます。「わ～、おいしいな～」と保育者の食べる真似を見て、子どもたちはにんまりとした笑顔になります。この時期の子どもたちにとっては“先生”が大きな存在なのだなど改めて感じます。保育者と一緒に遊んだり思いに応えてもらったりすることで安心し、幼稚園って楽しいなと思えるように支えていきたいと思います。安心安定の土台から、子どもたちの世界がどう広がっていくか、今後の成長を楽しみに、今の時期を大切に過ごしていきたいと思います。(高橋)

## 風組になったよ！（風組）

進級した子どもたちに11名の新しい友達がかわり、ますます元気いっぱい風組です。風組の名札をつけてもらって嬉しそうに何度も名札を触る子どもや、名前を書いてもらったばかりの絵の具をさっそく使ってみる子ども、おうちに帰るときも履きたくなるくらい園庭靴がお気に入りになった子どもなど一人一人のしぐさや表情から風組になって張りきる気持ちが伝わってきます。そんな子どもたちの姿を見ると、私たちも風組の一員としてとても嬉しく思います。毎日朝から帰りまでパワー全開の子どもたちに、私たちも朝から全力です。子どもたちと一緒に遊び、パワーを使い切った降園後、保育室に落ちている画用紙の切れ端や泥だらけになった園庭靴を見て、「みんなたくさん遊んだな。」と感じる瞬間が、私たちの元気の素なのだ改めて感じました。

中庭の広い砂場で「この池から道をつくりたい。」と水の通り道を掘っていくAくんや、砂山にロケットをさして「大変だ！宇宙が事故です。」と言うBくんが、それぞれが自分のしたいことを楽しんでいます。その横で、CくんがAくんの使っているものと同じシャベルをもってきて、同じような自分の道を掘ったり、Dくん

がBくんのように車を池の周りに並べたりしていました。

裏庭では、花がらをすりつぶした色水で、ジュースをつくるDくんとEちゃん。そこに「何してるの？僕もやりたいな。」とFくん。Dくんたちは「いいよ。」と気持ちよくこたえます。別のところでは、Gくんがダンゴムシを捕まえ虫かごに入れているのを見て、Hちゃんが「ダンゴムシどこにいるの？」と聞くと「こっこの葉っぱの下におるよ。」とダンゴムシのいるところまでGくんが案内してくれました。捕まえたダンゴムシを、友達と一緒に観察したり飼育したりできるように、大きなたらいにそれぞれが捕まえてきたダンゴムシを一緒にいれて「ダンゴムシハウス」をつくりました。

ひとり一人が自分のしたい遊びを思う存分やってみたり、遊びの中で友達のしていることにも目が向き、自分もやってみたいという気持ちになったりする姿が見られます。新しいクラスや友達関係を喜んだり、花組からの友達関係にほっと安心したりいろいろな姿が見られる時期です。自分のしたい遊びがみつかることや友達と関わろうとする姿を大切に、風組が安心して自分を出せる場所になるように支えていきたいと思います。(中原)

## 星組だからこそできること

園ではその年齢や発達、季節などに応じて様々な遊具や環境を用意しています。遊戯室の周辺には主に年長児が遊ぶものを置いています。その一つが友達と力を合わせて基地やお家をつくって遊べる大型ブロックで、もう一つは簡単には乗れるようになりませんが、繰り返し粘り強く頑張ると乗れるようになる一輪車です。それらは年中児のときに「星組になったら思う存分しよう」と思っていたとても魅力的な遊びです。星組になったばかりの男児たちが去年の星組がつくっていたように大型ブロックの基地づくりを取り組み始めましたが、始めは組み方の要領を得ずうまくいかず、保育者を呼びに来ました。保育者がブロックを合わせる位置や向きが分かるようにやって見せ、二人で協力すると簡単にできることを伝えると「自分達でする！」とつくり始めました。友達がしている姿を見て、「手伝おうか」「入れて」と友達がかわっていきます。「そっち引っ張って」「ここはベッドにしようよ」「もっと高くしよう」「入口は下からね」などと自然と相談したり協力したりして進める姿が見られます。出来上がるとその場を拠点にして友達とごっこ遊びが始まりました。その側では練習台や壁をつたいながら黙々と一輪車に取り組みんでいる女児達の姿が見られます。少し手放して乗れるようになった子どもも増えてきて見通しがもてたのでしょうか、風組の時よりも長い時間続けて取り組んでいます。友達の頑張る姿が、みんなのやる気スイッチを押してくれるようです。子ども同士が遊びを通して見合ったり伝え合ったりすることで共に学び合っていきます。(高田)